

学校の在り方地区検討委員会（東青地区）

【第3回】概要

日時：令和8年4月23日（木）

9：30～12：00

場所：アラスカ 3階 エメラルド

<出席者>

工藤裕司委員、渡辺委員、佐藤委員、久慈委員、五十嵐委員
木村委員、竹内委員、三上委員、白鳥委員、須藤委員
佐々木委員、成田委員（進行役）

1 開会

2 事務局説明

事務局が資料1について説明した。

3 意見交換

（1）単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性

- 単位制は不登校のこどもたちをはじめ、多様性のあるこどもたちにとって柔軟な学びを提供してくれるという意味合いが非常に大きいので、単位制の拡充の方向性は非常に良い。

- 既に単位制を導入している青森東高校や青森中央高校における単位制に基づく教育活動の状況について伺いたい。
 - （青森東高校）履修している科目の単位を修得できなくても年次が上がり、最終的に卒業に必要な74単位を修得すれば卒業することができる。生徒が自ら必要な科目を選択することができ、再挑戦にも適している。
 - （青森中央高校）多様な学びに対応できるという利点がある。

- 小・中学校では教員の未配置が問題になっている。高校でも未配置があるようだが、単位制を拡充する場合には教員数が必要になるということなので、柔軟にこどもたちを育成できる体制を整えてもらいたい。

- 教員の未配置の状況について情報提供してもらいたい。
 - （青森北高校）英語の教員が未配置である。
 - （青森工業高校）県内で理科、国語、英語の教員が不足している。県内の工業高校では8名が未配置である。本校の機械科においては1名が未配置であり、電気科においては非常勤講師で対応している。

- 単位制の高校において、3年間で卒業単位数を修得できない場合、さらに1年間在籍して卒業を目指すことは可能か。また、仮に退学して数年後に学び直す場合、修得した単位を生かすことができるのか。
- （青森東高校）3年間で卒業に必要な単位を修得できなかった場合、4年次に在籍して卒業を目指すことができる。また、修得した単位は、定時制や通信制等の他校への転・編入学において生かすことができる。
- 単位制と少人数学級編制の拡充の方向性は良いと思うが、高校でも教員の未配置があるということなので、計画倒れとなり、教員の成り手がますます不足しないよう、教員配置についても併せて検討していく必要がある。

（2）全日制課程の学校規模・配置

- 産業に関わる人材育成はとても重要であり、勤労観、職業観を育成するキャリア教育の観点からも、東青地区の職業学科を有する青森商業高校と青森工業高校の学級数を維持してもらいたい。
- 職業学科においては、実習が多く、少人数学級編制を実施したほうが良いと思うが、生徒数の減少に合わせて教員数が減少することがないように、県として方策を講じてほしい。
- 大学でもデータサイエンスは人気があり、指導する人材が不足している。民間企業における人材不足も同様であり、そのような人材を当てにしすぎず、社会教育と連携するなど新たなシステムの構築が必要である。
- データサイエンス科と聞いてもすぐにイメージが湧かないため、どう具現化するかが重要である。また、高校側の体制整備や地域の方々の協力も必要となる。
- データサイエンス科で何を学ぶのかが見えないが、こどもたちは新普通科に興味を持って調べると思うので、こどもたちにも分かりやすいように打ち出したほうが良い。また、高校では、より高度で専門的な学びが重要であり、指導する教員や外部人材などをしっかりと確保できると良い。
- データサイエンス科で学ぶ内容を高校が考えると、学校間で差が生じる可能性があるため、ある程度の指針が必要かもしれない。
- 高校からデータサイエンス科の具体的な学習内容が発信されれば、中学生は新普通科の学びをイメージできる。
- 高校が小規模化するのを防ぎ、余裕のある教員配置ができる高校を増やした上で、新普通科の設置を考えたほうが良い。

- 前回の会議では、青森中央高校、青森南高校、青森北高校を中心に探究科を考えるのが良いという意見や、地域的な観点も踏まえ、青森西高校と青森高校において普通教育を充実させるのが良いという意見が挙げられた。そう考えると、現在普通科のみであり、かつて理数科があった青森東高校へのデータサイエンス科の設置が考えられる。
- 青森東高校にデータサイエンス科を設置することで新たな魅力が打ち出せる。また、探究科については、青森中央高校、青森南高校、青森北高校の3校を合わせて探究学習をけん引する高校として新設するのが良い。
- 高校における探究学習について情報提供してもらいたい。
 - (青森南高校) グローバル探究科だけでなく、普通科も含めて探究学習を行っている。教員研修も充実させ、教員の探究に対する考え方は深まっている。ただし、探究学習の方向性は多岐にわたるため、対応する教員数が必要であり、探究学習を充実させるにはある程度の学校規模が必要になる。
 - (青森東高校) 社会や大学は、自分の得意や好きを伸ばしたいという思いを持つ生徒を求めており、5割が総合型選抜で合格する状況である。高校では、ほとんどん学校の外に出て探究的な学びを深めている生徒もいる。
- 新普通科の教育内容等が分かれば、中学校としては安心して生徒を高校に送り出せる。また、高校での活動をアピールして大学に進学する形もあると思われるが、そのような観点でも情報があると良い。
- 多様な学科がある中で、新普通科には普通科と異なるどのような進路の選択肢があるのか、将来の進路選択にどのように有利になるのかというイメージができれば、中学校においても進路指導が充実する。
- 探究学習に取り組んだから大学に進学できないということはなく、むしろ探究学習に取り組んだほうが大学進学に生かすことができる。長らく探究学習に取り組んでいる青森高校の状況を伺いたい。
 - (青森高校) スーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、文理融合の学び等を取り入れた探究学習に取り組んでいる。難関大学進学や医師を目指す生徒にも対応できる教育課程を編成し、探究学習を進めているという特徴がある。
- 社会が求めているということで、新普通科の設置はとても意味がある。中学生は、自分の将来像が見えてくれば、その高校・学科で一生懸命取り組むことになるため、文系でも大丈夫であるなど、具体的に学科について分かるような学校紹介をお願いしたい。
- 新普通科を設置するにしても、小規模校だと教員の負担が大きいというのであれば、6学級程度の規模が必要であり、また、教室の確保や教員の配置などもしっかりと対応する必要がある。

- 選択肢を広げるといふ点で新普通科の設置は良い。ただ、充実した教育環境として6学級規模でなければならないとのことだが、教員数が足りないからそのように言っているのではないかと感じる。教員が少ないから統合して大規模校を増やすという考え方でなく、県として予算をかけて教員を増やす取組を考えるべき。
- 東青地区の高校が全て青森市内に所在する現況において、上磯地区のこどもたちにとっては高校への通学手段が課題になるため、統廃合する場合にはその点も考慮してもらいたい。
- 普通科をベースに大学や企業と連携しながら新たな学びを展開するという3つの新普通科は、地域課題の解決や、これからのこどもたちを育てていくという意味では非常に良いが、こどもたちが夢を持って進学しようと思えるよう、中学校と高校が連携してしっかりと周知する必要がある。また、多くの普通高校がある東青地区においては、3つの新普通科を全て設置することも考えられる。
- 3校の統合についての話があったが、事務局からの提案なのであれば、地域に根差して高校が存在している中で、当該地域にとって大きな問題であるため、本委員会での更なる協議が必要である。
- 新普通科の設置に関して情報提供があればお願いしたい。
 → (青森商業高校) 商業高校では、ビジネスを円滑に進めるためにDXをどのように展開していくのかという目的を明確にして、AIやDXについて学習している。
 → (浪岡高校) 新普通科の学びについて、地域と連携しながら、あおもり創造学の取組を含む総合的な探究の時間を充実させる方向性が考えられる。

(3) 定時制課程・通信制課程の学校配置

- 北斗高校における定時制・通信制課程の状況について情報提供をお願いしたい。
 → (北斗高校) 定時制については、不登校経験を有する生徒や特別支援学校に通学していた生徒、外国籍の生徒等、多様な生徒が在籍している。また、通信制については、生徒の社会的自立を見据え、対面でのスクーリングを大事にしており、週に2日のスクーリング日を設けている。通信制を希望する生徒は増加傾向にある。

■ 進行役が今回示された定時制課程・通信制課程の学校配置の方向性に沿って進めてもらうことに異論はないか確認したところ、特に意見は無かった。

4 閉会